



## UN GLOBAL COMPACT LEADERS WEEK

23-26 SEPTEMBER  
UN HEADQUARTERS  
NEW YORK



世界の政財界のリーダーが集まる国連総会が、今年もニューヨークで開かれました。それに合わせ、国連グローバル・コンパクトも9月23日から26日までLeaders Weekを開催。グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンより、有馬代表理事、国連グローバル・コンパクトボードメンバー・理事、大場事務局長と王事務局長が参加し、気候変動、ジェンダー平等やSDGsの主流化など、様々な課題について、世界中から集まった企業のリーダーたちと共に議論しました。

### Leaders Week とは

国連グローバル・コンパクト Leaders Week は、国連総会関連の活動に連携して、世界のリーダーをエンゲージする最も高いレベルの機会。開催期間中では、様々な行事が開かれ、世界中の経営者、CSR 専門家、政府機関、市民社会団体などステークホルダーが、このプラットフォームに会い、SDGs やグローバル・コンパクト 10 原則の実現など、目標達成に向けたグローバルなアジェンダに取り組んでいきます。

### SDG Business Forum



国際商業会議所 (ICC)、国連経済社会局 (UNDESA)、国連グローバル・コンパクト共催により開催された SDG Business Forum は、SDGs 実現に向けたグローバルなマルチステークホルダーによるパートナーシップと企業のコミットメントの促進を目的とするプラットフォーム。今年 4 回目の開催となったこのフォーラムは、ビジネス向けに、政策や

企業戦略、世界の動きから実例まで、SDGs 達成に向けた取組や課題について議論するビジネス向けのプログラムを設け、世界中の政府および企業のハイレベルな講演者が参加。

フォーラムの幕を開ける基調講演の冒頭、モハメッド国連副事務総長は世界中で注目をされている SDGs が「グローバルなスケールで、普遍的に適用可能なもの」と説明。「17 の目標を達成できる速度で進んでいないのが明らかで、野心的な気候行動を含めすべての目標を達成するために、取り組みの加速が急務」と警鐘を鳴らしながらも、「私は楽観視しています。何故ならば、ここにいる皆様を始め、世界の多くの人々が SDGs の達成へのステップアップに取り組もうとする強い決意と意欲を持っているからです」と期待を寄せました。



アミーナ・J・モハメッド国連副事務総長

続いて登壇したリセ・キンゴ国連グローバル・コンパクト CEO 兼事務局長は、2019 年度国連グローバル・コンパクト進捗状況アンケート調査に答えた Participant 企業の 81% が SDGs に取り組んでいることを報告。その一方で、「より社会にインパクトのある持続可能なビジネスになるには、サステナビリティを経営戦略、サプライチェーン・マネジメントやステークホルダー・エンゲージメントに統合し、中核的事業として実施していくことが必要不可欠」と企業に野心を行動に一致させるよう促しました。



リセ・キンゴ国連グローバル・コンパクト CEO 兼事務局長

後半のパネルディスカッションは、資金調達、企業運営とすべてのレベルでの意思決定プロセスを SDGs 推進と明確に結びつけることに焦点を当て、経済界と政界を引っ張るパネリストたちが、グローバルな変化の激しい中、国際的共通言語である SDGs 経営の本質について意見交換を行いました。その中でも特に印象的なのは、「ビジネスの未来」をテーマとした第二部のパネルディスカッション。4 人の女性リーダーが女性と若者のエンパワーメントや地域の特性・実情に合わせた「SDGs のローカル化」を語り合い、SDGs 時代の企業のあり方を提言しました。SDGs によりもたらされる世界には、女性が活躍できる場が無限大にある、そういった可能性を感じることができるセッションでした。

このフォーラム最後のクロージングに登壇したのは、ジョン・デントン国際商業会議所事務総長とポール・ポルマン国連グローバル・コンパクト副議長。SDGs の達成に向けた民間資金の導入というような容易ならざるテーマに正面から向き合い、多面的かつ真摯に議論することの重要性を強調するデントン国際商業会議所事務総長は、金融活動に「持続可能性の観点からの評価軸」を組み入れることを求めました。ポルマン国連グローバル・コンパクト副議長も 2030 年までに SDGs を実現するための 2~3 兆米ドルの資金ギャップを指摘し、「これはまさに人類史上最大のビ

ジネスチャンスではありませんか」と参加者に語りかけました。持続可能性の追求について語り始めると次々と言葉が溢れ、徐々に熱を帯びてゆくポールマン副議長。最後に「SDGsの全ての目標を理解しようとするのが難しい感じがするが、かけがえのない未来のために、SDGsの『自分ごと化』を目指し、直ちにアクションを起こさないとはいけません」と力強い言葉で語り締めくくりました。



ポール・ポールマン副議長

国連総会のサイドイベントの中でも最大級に人数が集まることで有名なSDG Business Forumは、今回も600人以上の参加で大盛況。「地球上の誰一人として取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するため、国際社会が一丸となって取り組んでいくことを願うばかりです。

### Trailblazing Women Reception

2030アジェンダの前文で「ジェンダー平等とすべての女性と女児の能力強化を達成することを目指す」と謳っていることから明らかなように、SDGsの核には人権があり、ジェンダー・女性の視点も明確に示されています。

そのため、国連グローバル・コンパクトは、企業に人権尊重の責務を果たすよう呼びかけ続け、職場、市場、地域におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメントの一層の推進を目指しています。今回もLeaders Weekの開催に合わせ、Trailblazing Women Receptionが開かれ、企業に女性の活躍とリーダーシップを推進するよう求めるTarget Gender Equalityイニシアチブがローンチされました。



TARGET  
GENDER  
EQUALITY



SDG Business Forumとは異なり、このレセプションは国連本部ビルではなく、敷地内のローズガーデンで設置されたSDGアクションゾーンで開催されました。イベントや展示会、講演が行われる他、SDGs達成に向けた革新的アイデアなども展示され、とても印象的でした。



SDGアクションゾーン

コロンビアのマリア・フェルナンダ・スアレス環境相の開会挨拶で幕を開けたレセプションは、最初から熱い議論の展開で、会場全体が一体となり終始熱気に包まれました。「今の世界はジェンダー平等にまだ程遠いということは、『仕事か子育てか』の選択を迫られる女性が依然として大勢存在していることから明らかです」と論じるスアレス環境相も会場の盛り上がりには負けない熱気で「もっともっと力を合わせて、共に頑張りましょう！」と世界中の女性にエールを送りました。



マリア・フェルナンダ・スアレス環境相

続いて登壇したのは「ジェンダー平等は、気候変動以上に喫緊の課題」と述べるリセ・キング国連グローバル・コンパクトCEO兼事務局長。ビジネスの世界でも女性の参画なしでは持続可能な発展は不可能であり、今や企業は一つの国だけではなく、世界中で女性のエンパワーメントの促進に貢献できることを強調しました。さらに「世界各国の職場で男女の平等が実現するには200年以上かかること、ご存知ですか？」と参加者に問いかけるリセ・キング事務局長は、ジェンダー平等の実現は「男性の問題」でもあり、もっとい

えば世界をめぐる課題でもあることを訴えました。

Mastercard アン・ケアンズ副社長も「ジェンダー平等に関心のない企業に将来がない」と強い口調で語りました。「この世界では、人材の半分が女性。もしこれを無視するのであれば、その企業のリスクにおいてすればよい」と企業リーダーであると同時に女性でもある自分自身の経験を振り返りながら、多様性と職場での男女間格差に対する行動の強化をビジネス界のリーダーらに呼びかけました。



アン・ケアンズ副社長（左）とリセ・キング事務局長

その他、人種偏見や性差別問題の活動家で女優であるジャミーラ・ジャミルやファッションデザイナーで起業家・レベッカ・ミンコフなど、各分野で活躍している女性リーダーも登壇し、それぞれジェンダー平等実現の想いを込めたメッセージを参加者含め世界中の女性に送りました。「女性の被抑圧状況を変えたいために、今こそ立ち上がるではありませんか！」と熱く語るジャミルに対し、ミンコフは「『女性起業家としては…』と聞かれることがあまり好みません。女性であることがハイライトされないような平等な社会を作りたい」と静かに、そして力強く語りかけました。



活動家で女優であるジャミーラ・ジャミル

女性があらゆる分野で経済活動に参加できるように、女性のエンパワーメントを推進することは、社会や企業の持続的な発展にもつながります。GCNJは、これからもSDGsの担い手としての次世代人材や女性のエンパワーメントに注力して参ります。